

採択拠点の拠点形成概要及び採択理由

【分野名：社会科学】

大 学 名	東京大学	整理番号	I - 3
拠点のプログラム名称	市場経済と非市場機構との連関研究拠点		
中核となる専攻等名	経済学研究科経済理論専攻		
事業推進担当者	(リダー) 吉川 洋 外22名		
<p>(拠点形成の概要)</p> <p>現代経済学のフロンティアに於いて、最大の研究テーマは市場経済の仕組みから市場経済と多様な非市場的機構との連関メカニズムへと移っている。本拠点はこのテーマに関する総合的な研究を実施し、既に世界的な研究教育機関としての地位を占めつつある経済学研究科を国際研究交流の一大基点へと発展させ、Tokyo Schoolと称されうる世界最高水準の研究者再生産の場とすることを目的とする。研究実施に際しては、ミクロ・マクロ・歴史・統計の4つの研究部門を設定し、各分野の手法がもつ特性を発揮すると共に、リーダーの主導の下にその統合を計る。研究成果は国際会議の自己目的化を避け、可能な限り国際的に開かれた形態で発信する。研究者の再生産に向けては、4部門の連携の下での大学院での体系的なコースワークを基礎に、各部門毎のワークショップや21世紀COEフェローのセミナーを中心として、若手研究者に最先端の研究に直接参加させることに努める。また大学院生に対して国際化のための教育指導を強化すると共に、若手研究者に対しては海外でリアルタイムの共同研究を行う機会を制度化する。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>国際的に評価の高い業績を持つトップクラスの研究者を数多く有しており、ミクロ、マクロ、計量経済学の分野で、世界水準の研究教育活動が実現する可能性が高く、世界的研究教育拠点の形成に期待する。これまで本研究科の研究活動を支えてきた人材の多くは米国の大学院教育に依存してきたが、それを本研究科でも形成するための意欲も評価できる。他方で、本計画のコアとなる「非市場経済」の内容や市場経済との「連関研究」を進める方法論をより具体化することが期待される。</p>			